

—概要—

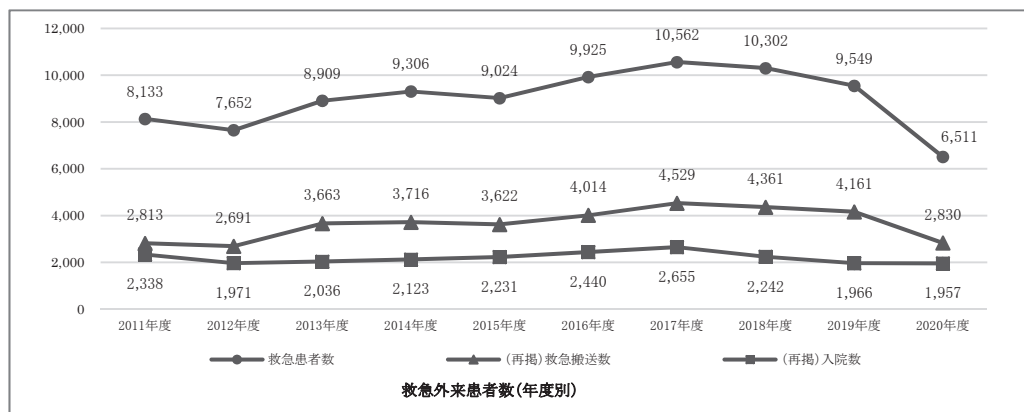
りんくう総合医療センターでは、脳卒中や循環器疾患などの専門救急を中心に、1997年の現病院竣工以来積極的に救急患者を受け入れてきました。その中心的役割を共同運営部門である救急診療部が担い、時間外救急外来患者数(救急患者搬送以外を含む)はピーク時には2万2千人を超えました(2002年)。しかしながらその後、呼吸器内科や消化器内科といった内科系主要診療科の撤退により内科の救急告示を取り下げざるを得ない事態となり、2008年以降時間外救急外来患者数は急激に減少しました。

時を同じくして、大阪府下における救急医療体制は崩壊の危機に瀕しており、特に大阪府南部地域の救急医療体制の立て直しは喫緊の課題でした。2009年度から始まった泉州圏域における地域医療再生計画の一環として、泉州南部地域の救急医療体制について、三次救急医療はこれまで通り泉州救命救急センターが、二次救急医療はりんくう総合医療センターが泉州救命救急センターと協働して中心的役割を担うこととなりました。さらに、「高度専門医療と重症救急医療の融合」を目指して、2013年4月をもって、大阪府立泉州救命救急センターは地方独立行政法人りんくう総合医療センターに移管統合されました。

二次救急医療はりんくう総合医療センターが地域の中核病院として総力を挙げて取り組むべきプロジェクトであり、その中心となる診療科が必要でした。そこで、泉州救命救急センターの統合に先立ち、2011年に泉州救命救急センターのスタッフを動員して救急科が新設されました。これにより、診療時間内は救命医師指導下での一年目初期研修医によるプライマリ体制が確立し、確実な救急受け入れと初期研修医の教育体制の充実に繋がりました。診療時間外の救急は、2～8年目の初期後期研修医および若手医師がプライマリ医師を勤め、その上に指導的立場のスタッフ医師が救急責任医師として当直する体制を構築しました。また、救急科の新設により、入院診療科のはっきりしない症例も取りあえずは救急科としてスムーズな入院が可能になり、診療時間外プライマリ医師の負担軽減に繋がりました。

入院病床としては、5階海側病棟に緊急入院や重症患者管理用の病床として救急科・中央管理病床14床とHCU4床を配置しています。また、当院では各病棟の空床は、当該診療科以外であっても使用できるフリーアドレス制を採用して、病床の有効利用に努めています。2016年10月からは、夜間帯の救急責任医師を救命救急センターの医師が担当して、一層の受け入れ態勢の強化を図りました。

これらの対策を講じた結果、減少していた救急外来患者数は救急搬送患者を中心に2013年度より再上昇に転じ、2016年度以降は救急搬送受け入れ患者数が4,000件を超えて推移しており、泉州救命救急センターの三次搬送患者数と合計すると6,500件を超える救急車を受け入れています。救急外来患者数は、2017年度以降減少傾向にあるのが課題です。



救急外来における受診依頼に対する応需率は、2021年2月は満床のため低下しましたが、他はすべて90%を超える応需率でした。

また、2015年度には、感染症患者の対応を考慮して、救急外来に陰圧室を整備しました。

順調に患者数を増やしてきた救急診療部ではありますが、2019年の1月にVRE(バンコマイシン耐性腸球菌)の院内感染のため、また、2020年2月からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延のために、二次救急患者の受け入れに支障をきたしました。COVID-19の影響は2021年5月末現在においても継続中です。

## 研究業績：共同運営部門 救急診療部

### 平成28年度

#### (1) 英文原著、総説、著書

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	Can Early Aggressive Administration of Fresh Frozen Plasma Improve Outcomes in Patients with Severe Blunt Trauma?—A Report by the Japanese Association for the Surgery of Trauma	Akiyoshi Hagiwara, Shigeaki Kushimoto, <u>Tetsuya Matsuoka</u> and et al.	SHOCK	45(5)	495-501	2016
2	Development of a Prehospital Vital Signs Chart Sharing System	Taka-aki Nakada, Naohisa Masunaga, <u>Tetsuya Matsuoka</u> and et al.	Am J Emergency Medicine	34	88-92	2016
3	Fibrinogen Level on Admission is a Predictor for Massive Transfusion in Patients with Severe Blunt Trauma: Analyses of a retrospective Multicenter Observational Study	Yoshihiko Nakamura, Shigeaki Kushimoto, <u>Tetsuya Matsuoka</u> and et al.	Injury	48(3)	674-679	2017

#### (2) 和文原著、総説、著書

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	地域医療と救急医療	松岡哲也	救急医学	40(13)	1601-1603	2016
2	病院前外傷診療における覚知時ドクターカー出動要請システムの現状と課題	松浦治人 渡部広明 中尾彰太 木村信広 <u>松岡哲也</u>	日臨救急医学会誌	19	559-565	2016
3	当院における成人鈍的腹部外傷の止血戦略—開腹術とIVRどちらを優先するか—	中尾彰太 井戸口孝二 比良英司 水島靖明 <u>松岡哲也</u> 渡部広明	JJACS	6	14-19	2016

#### (3) 国内学会報告

番号整理	演題	発表者	学会名	発表形式	年月日
1	地域医療構想の策定は、適正な救急医療体制の構築に通ずる	松岡哲也 中尾彰太 水島靖明	第19回日本臨床救急医学会総会	パネルディスカッション	2016.5.13
2	重症外傷患者救命のための道標—外傷外科手術治療戦略(Surgical Strategy and Treatment for Trauma:SSTT)コース—	松岡哲也	第22回日本脳神経外科救急学会	特別講演	2017.2.3

#### (4) 学術講演・講義

番号整理	演題	発表者	学術講演会名	年月日
1	在宅医療の後方支援体制の整備について～地域医療構想(ビジョン)の策定を踏まえて～	松岡哲也	第5回泉佐野泉南医師会 在宅医療研修会 ～在宅医療と後方支援病院～	2017.3.11

#### (5) 座長

番号整理	セッション名	司会者名	学会・研究会名	年月日
1	口演：四肢外傷④ その他2	松岡哲也	第30回日本外傷学会総会	2016.5.30
2	口演：重症度・予後評価	松岡哲也	第44回日本救急医学会総会	2016.11.17
3	<パネルディスカッション>『地域で創る後方支援体制』～見せましょう！多職種でつなげる連携体制を～	松岡哲也 小笠原秀則	第5回泉佐野泉南医師会 在宅医療研修会 ～在宅医療と後方支援病院～	2017.3.11

### 平成29年度

#### (1) 英文原著、総説、著書

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	Perimortem cesarean delivery and subsequent emergency hysterectomy:new strategy for maternal cardiac arrest	Mayako Goto, Hiroaki Watanabe, Kazuhide Ogita, and <u>Tetsuya Matsuoka</u>	Acute Medicine & Surgery 2017	4	467-471	2017
2	Development of a novel information and communication technology system to compensate for a sudden shortage of emergency department physicians	Kumiko Tanaka, Taka-aki Nakada, Hiroshi Fukuma, Shota Nakao, Naohisa Masunaga, Keisuke Tomita, Yosuke Matsumura, Yasuaki Mizushima and <u>Tetsuya Matsuoka</u>	Scandinavian Journal of Trauma, Resuscitation and Emergency Medicine	25(6)		2017

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
3	Radiological classification of retroperitoneal hematoma resulting from lumbar vertebral fracture	Shota Nakao, Kazuo Ishikawa, Hidefumi Ono, Kenji Kusakabe, Ichiro Fujimura, Masato Ueno, Koji Idoguchi, Yasuaki Mizushima, Tetsuya Matsuoka	European Journal of Trauma and Emergency Surgery	published online		2018

(2) 和文原著、総説、著書

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	救急医療におけるメディカルコントロール	松岡哲也 他多数	著書			2017
2	救命救急センターと周産期センターのコラボレーションとチームワーク	成田麻衣子 中尾彰太 松岡哲也 前中隆秀 荻田和秀	日本腹部救急医学会雑誌	38(3)	489-493	2018

(3) 学術講演・講義

番号整理	演題	発表者	学術講演会名	年月日
1	地域医療構想と救急医療体制 「地域包括ケアシステムの確立による救急医療体制への影響は？」	松岡哲也	泉州MC消防部会 講演	2017.5.17
2	地域包括ケアと救急医療 ～地域医療構想の策定は、適切な救急医療体制の整備に通ずる～	松岡哲也	第30回東予地域MC症例検討会	2017.7.22
3	泉州地域の救急医療体制 ～急変時の医療を考える～	松岡哲也	りんくうメディカルプラザ	2017.8.5
4	後方支援体制の進捗状況について	松岡哲也	第6回泉佐野泉南医師会在宅医療研修会	2017.9.9
5	これからの事後検証の在り方	松岡哲也	大阪府下消防長会	2017.10.30
6	ワークショップ:オンラインMC	松岡哲也	2017年度病院前医療体制における指導医等研修(初級)	2017.12.1
7	病院前から病院内を俯瞰した救急診療体制の充実をめざして ～大阪府泉州地域の取り組み～	松岡哲也	済生会滋賀県病院講演会	2017.12.4

(4) 座長

番号整理	セッション名	司会者名	学会・研究会名	年月日
1	パネルディスカッション9 「救急初療室における適正な撮影を考える」	松岡哲也 高橋大樹	第20回日本臨床救急医学会	2017.5.26
2	パネルディスカッション 本邦における外傷センターの整備	松岡哲也 大友康裕	第31回日本外傷学会	2017.6.2
3	ランチョンセミナー2 救急医にとっての循環モニタリング～循環エキスパートへの道～	松岡哲也	第45回日本救急医学会総会	2017.10.24
4	パネルディスカッション9関連セッション重症外傷診療のイノベーション:基礎的、臨床的アプローチ	松岡哲也 澤野 誠	第45回日本救急医学会総会	2017.10.25



平成30年度

(1) 英文原著、総説、著書

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号):ページ,年
1	Profile of the ORION (Osaka emergency information Research Intelligent Operation Network system) between 2015 and 2016 in Osaka, Japan: a population-based registry of emergency patients with both ambulance and in-hospital records	Jun Okamoto, Yusuke Katayama, Tetsuya Matsuoka, et al.	Acute Medicine & Surgery	6: 12-24, 2019
2	Impact of initial coagulation and fibrinolytic markers on mortality in patients with severe blunt trauma: a multicentre retrospective observational study	Kenta Ishii, Shota Nakao, Tetsuya Matsuoka, et al.	Scand j Trauma, Resuscitation and Emergency Med	27(25): 1-11, 2019

## (2) 和文原著, 総説, 著書

番号 整理	題 名	著 者	著書・誌名	巻(号):ページ,年
1	人工呼吸管理を要する鈍的外傷患者における離床遅延因子	大野直樹, 中尾彰太, 松岡哲也, など	日本集中医師	26:13-8,2019

## (3) 国内学会報告


番号 整理	演 題	発 表 者	学 会 名	発表形式	年 月 日
1	傷病者の搬送と受け入れの実施基準とその検証—ORIONの活用—	松岡哲也	第24回日本脳神経外科救急学会	教育セミナー	2019.2.1

## (4) 学術講演・講義

番号 整理	演 題	発 表 者	学術講演会名	年 月 日
1	高齢者救急医療を考える—地域包括ケアシステムにおける後方支援体制—	松岡哲也	泉州メディカルコントロール協議会消防部会	2018.5.21
2	実施基準の策定とORIONの導入が何故,必要だったか?	松岡哲也	実施基準とORIONに関する集中講義	2018.12.3
3	外傷外科手術治療戦略—Damage Control Surgery—	松岡哲也	三郷中央病院学術講演会	2018.12.23

## (5) 座長

番号 整理	セッション名	司会者名	学会・研究会名	年 月 日
1	シンポジウム6 「ICUにおける早期リハビリテーション」	松岡哲也, 上西啓裕	第21回日本臨床救急医学会総会	2018.6.1
2	パネルディスカッション1 「Off-the-job training の現況」	松岡哲也, 守谷俊	第32回日本外傷学会総会	2018.6.21
3	口演セッション 「骨盤四肢外傷」	松岡哲也, 反町光太郎	第46回日本救急医学会総会	2018.11.19

 平成31年度・令和元年度

## (1) 英文原著, 総説, 著書

番号 整理	題 名	著 者	著書・誌名	巻(号):ページ,年
1	Prehospital lactate improves prediction of the need for immediate interventions for hemorrhage after trauma	Fukuma H, Nakao S, Matsuoka T, et al	Scientific Report, Nature research	9(13755), 2019

## (2) 和文原著, 総説, 著書

番号 整理	題 名	著 者	著書・誌名	巻(号):ページ,年
1	病院前救護における機械的CPRの有用性の検討—Chest Compression Fraction に着目した分析—	木村信広, 中尾彰太, 松岡哲也, 他	日臨救急医学会誌(JJSEM)	22:455-61, 2019
2	病院前から搬送後情報を連結した地域網羅救急搬送傷病者レジストリ(ORION)におけるデータ登録状況	岡本潤, 中尾彰太, 松岡哲也, 他	日臨救急医学会誌(JJSEM)	22:540-50, 2019
3	鈍的頸椎損傷に合併する椎骨動脈閉塞症例の検討	中村洋平, 萩原靖, 松岡哲也, 他	日救急医学会誌(JJAAM)	31:37-46, 2020

## (3) 国内学会報告

番号 整理	演 題	発 表 者	学 会 名	発表形式	年 月 日
1	疾病別調査に基づく搬送受け入れ基準(実施基準)の策定と検証体制の確立—泉州二次医療圏における取り組み—	松岡哲也	全国メディカルコントロール協議会	シンポジウム	2020.1.31

## (4) 研究会・講演会

番号 整理	演 題	発 表 者	研 究 会 名	年 月 日
1	事後検証のあり方	松岡哲也	大阪府下消防長会警防救急委員会救急担当者会議	2019.10.24
2	泉州二次医療圏における救急医療体制の現状	松岡哲也	第20回泉州急性期医療フォーラム	2019.11.28

## (5) 座長

番号 整理	セッション名	司会者名	学会・研究会名	年 月 日
1	特別講演 スーパーマイクロサージャリー: 再建外科最前線	松岡哲也	第33回日本外傷学会総会・学術集会	2019.6.6
2	SSTT10周年記念セッション「SSTTの足跡とこれから」	松岡哲也, 渡部広明	第33回日本外傷学会総会・学術集会	2019.6.6
3	パネルディスカッション3 Acute Care Surgeryを科学する	松岡哲也, 渡部広明	第47回日本救急医学会総会・学術集会	2019.10.2